

校内研修計画

甲州市立松里小学校

1 学校課題

松里小学校は、甲州市の北西部に位置し、自然にも恵まれ多くの文化財や伝統行事が残る地域にある。児童数は140人（平成24年4月現在）で、学級数は7学級と小規模校である。児童は学年の枠を超えて仲がよい。優しく素直で、与えられた課題や学習に一生懸命取り組むことができる児童が多く、集団の中で個々が活かされ認めあえる機会も多い。

本校では、自分で課題を見付け自分の力で解決していくことに焦点を当て、主体的な学びを育てる指導・評価の研究を深めてきた。その結果、自ら課題を見付け、友だちの考え方を取り入れながらいろいろな考え方で課題を解決しようとする姿や楽しみながら考え工夫して活動に取り組む姿が見られるようになってきた。しかし、自分の考えを主張する力、新しいことに挑戦しようとする意欲、自分の考えを他に伝えたり形にしたりする表現力、学習したことを応用する力などに課題が見られた。

2 研究主題

「子どもたち一人一人の伝え合う力を高める研究」

～国語科における「話すこと・聞くこと」の活動を通して～

3 主題設定の理由

本校では、図画工作科における主体的な学びを育てる指導のあり方について研究を進めてきた。平成17年度から3年間の研究の成果を、学力の把握に関する研究指定校として国立教育政策研究所に資料の提供と報告を行った。昨年度は、これまでの実践を踏まえ、評価の重点化・焦点化に視点を置きながら、新教育課程における一題材一評価を基本とした全学年の年間計画・指導・評価計画づくり、研究授業を通じた育てたい資質や能力に視点を置いた指導のあり方と評価の工夫の研究を進めてきた。

本校の児童は、これまでの図画工作科における取り組みから、図画工作科においては自分の思いを膨らませたり、互いに感じたことを伝えあったりする力が伸びてきていると感じられる。しかし、他の教科や学校生活の中では十分ではない部分も見受けられた。そこで、今年度からは、「確かな学力」の確立の観点から、児童の基礎的な知識や技能の習得のための学習習慣の確立を目指して、図画工作科で培ってきたこうした力を他教科にも広げ、基盤となる国語科の「話すこと・聞くこと」を中心に研究・実践を進め、伝え合う力の向上を実現していきたいと考えた。

4 研究の具体的内容と方法

(1) 内容

「伝え合う力」「話すこと・聞くこと」についての理論研究

「話すこと・聞くこと」について、児童の意識調査・教師の見取り・各種テストの分析

「話すこと・聞くこと」を身につけさせる指導を工夫した授業実践

「話すこと・聞くこと」の意欲を高める場の工夫や言語環境の整備

(2) 方法

「伝え合う力」「話すこと・聞くこと」についての学習会を行い、共通理解を図る。

児童の意識調査や教師の見取りなどから課題を明らかにすると共に、子どもの変容をとらえて、次につなげていく。

実践研究の基盤を授業研究におき、授業力を高めていく。また、一人一実践を基本とし、授業実践を通して教師が力量を高めるための具体的な取り組みを志向していく。

学校生活のあらゆる場面を通して「話すこと・聞くこと」の向上を支えていけるような、環境作りに取り組んでいく。

年間校内研修計画

研究主任 小河 真由美

研究テーマ	教科領域	内 容	担当者	学年	授業の時期	T・C要請
子どもたち一人一人の伝え合う力を高める研究	国 語 科	本年度の研究の方向性・研究主題・研究の見通し・具体的な研究内容・研究組織・年間計画	研究主任		4・5月	
		児童の意識調査・教師の見取り	研究主任 全員	全学年	5月	
		「伝え合う力」「話すこと・聞くこと」についての学習会	研究主任		6月	
		「話すこと・聞くこと」の意欲を高める言語環境の整備に向けての検討・実践	研究主任 全員	全学年	6月～ 12月	
		「話すこと・聞くこと」の授業に向けての取り組み	全員	全学年	7月～ 11月中心	
		教育課程説明会還流報告	各担当		8月	
		授業づくり	授業者	未定	10月	
		授業案検討	授業者			
		授業研究	授業者	未定	11月	
		児童の意識調査・教師の見取り (2回目)	研究主任 全員	全学年	12月	
		実践報告会	担任	全学年	1月	
		今年度の成果と課題 研究紀要づくり	研究主任 全員		2月	
来年度に向けて	研究主任		3月			